



コロナショックをチャンスに

2020年6月16日
株式会社アイ・ティ・イノベーション
代表取締役
林 衛

世界中の新型コロナウイルスにより被害を受けられた人々とそのご家族に心からお見舞い申し上げます。

また、患者、そのご家族への支援をされている医療関係者の皆様、このような状況下で社会システム維持に従事されている方々へ心から感謝いたします。

私は、このような状況下で

「コロナショックをチャンス【機会】と捉え、変化に対して前向きに」

というテーマで、ESD21における講演をお引き受けいたしました。

私のお話する内容の一部でも皆様の生活やお仕事のヒントにしていいただければと考えております。



1955年名古屋生まれ、名古屋育ち、名古屋大学工学部応用物理学科卒業
株式会社アイ・ティ・イノベーションの創業者、代表取締役
名古屋工業大学 情報工学科非常勤講師
大連東軟信息学院 客員教授
東京工業大学 工学院 非常勤講師

トッパンムーア（現トッパンフォームズ）入社後、トッパン・ムーア・システムズの設立時から参画。
渡英してモデルベース開発方法論と統合開発ツールを学ぶ。インフォメーション・エンジニアリングで
知られるジェームスマーチン・アンド・カンパニー・ジャパンを経て、1998年にITの革新を目指し、
アイ・ティ・イノベーションを設立。技術にも人間にも精通した、IT業界のオピニオンリーダー。

- 1998年 PMとソフトウェアエンジニアリングを融合させたコンサルティング事業を開始
- 2005年 インドにおいて、日本のIT技術者向けのソフトウェア・エンジニアリング教育への取組を開始
- 2009年 BABOK®の超上流工程への適用方法の研究開発と総合的トレーニングプログラム提供
- 2010年 ドラッカー理論に基づく、人間力強化プログラムを開発し実践を開始
- 2010年 ビジョン創造のための方法論Modus Visionに基づき戦略コンサルティングを始動
- 2013年 ビジネス・テクノロジー・戦略部門を創設し、グローバル標準のITアーキテクチャを踏まえたITビジョンから構想企画のコンサルティングを実施
- 2014年 IT-CMF（IT組織の成熟度評価方法論）の普及活動を開始
- 2016年 AI、IoT時代に対応できる次世代のアーキテクチャ構築方法論、次世代MDMツールを用いた新たなサービスの研究、コンサルティング活動に取り組む
- 2018年 インドプネにある子会社（IT innovation India Pvt. Ltd.）を連携したビッグデータ、AIのPoCビジネスと先端ITのコンサルティングとトレーニングを開始
- 2019年 デジタルトランスフォーメーション(DX)にかかわるコンサルティング手法確立に着手

- はじめに、私のプロフィール
- 2020年3月コロナショックが、やってきた
- グローバル社会に及ぼした影響
- 組織への影響
- 人への影響
- DXとコロナの関係（私の視点で詳述）
- 林 衛の解釈
- ITIの対処、初動、中期
- ショックをポジティブに考える



◆経緯

- 3月から日本では、徐々に感染者が増え始めITIは、働き方、通勤の方法など対処を開始
- 4月9日付、全社員に対して「新型コロナウイルス感染の影響に対する対策について（お願い）」を発信
- 4月17日付、パートナー向け「新型コロナウイルス感染の影響に対する弊社の取り組み方針」を発信

4月から90%程度のテレワーク化を実施、6月も継続している

3月から5月まで、ビジネス上の影響があるが、5月より徐々に新しい形の会社運営を行っている。

コロナが、グローバル社会に及ぼした影響

■ 短期

- 世界が同時に売上消失（製造業、運輸・物流、宿泊・飲食業など広範囲に影響）
- グローバル・サプライチェーン寸断
- テレワーク化、オンライン化、コミュニケーション方法の強制的変更
- あらゆる社会システムの学習、問題発見、再考の場
（政治、安全保障、医療、福祉、教育、金融、産業など）
- 社会システムの不具合、格差社会の課題が、露呈
（NYの状況などクオモ知事の発表、US知人との会話などから）
- 当たり前前に強い国家・勝ち、負け重視の国家が揺らぐ

■ 中長期

- フェイルセーフな、サプライチェーン再構築（効率化はリスク）
- 国内販売・供給重視
- グローバルビジネスの見直し
- DXを加速化・DX推進の機会
- 組織変革の機会、風土変革の機会 **フィンランド（SISU）**、自力でやり遂げる力、有休消化 100%
1人当たりGDP日本の1.25倍、在宅勤務3割
- 安全安心の国家、共創共生の社会（“自力”が、必要）
- ローカル（重視）⇔グローバル（役割再考）

社会システムの大きな変わり目に見える

■ 短期

- 人は、同じ報道を繰り返し聞き、集団になると“興味深い判断・行動”をする
- “生きるということ”、“働くということ”を考え直す
- 冷静に、論理的に考えてみる
- 今までの常識（習慣・クセ）に縛られず物事を考え直す

■ 中長期

- 地方移住拡大（地方からグローバルへ）
- 信ずることを進める
- 直感を信じる
- 働く喜びを見つける
- 共創共生が定着する

この未曾有の経験を経て、
得た特定の意識・価値観や
行動様式は、変化したまま
元には、戻らない
林衛の感じていること



■ 短期

- ネットワーク化の加速
- テレワーク化の加速
- ビジネスのリモート化・オンライン化の加速
- 利己
- 競争競合
- NPOの活躍
- 医療体制、制度の格差が、露出

■ 中長期

- 国、場所、時間にこだわらないビジネス
- 社会システムの質向上
- 利他
- 共創共生

デジタルトランスフォーメーション（DX）とは？

**ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で
より良い方向に変化させる**

2004年スウェーデンのウメオ大学のエリック・ストルターマン教授が提唱

背景に、先端IT技術の発展が、社会に大きなインパクトを与える

CSR、SDGsなどの活動などに代表される文化的・社会的な変化

様々な組織で様々な事情に適合したDXにかかわる活動が行われている



■そもそもDXの課題とは、

- 新たなビジネス価値創出（AI、IoT、ビッグデータなど）
- 既存システムのスラム化・ブラックボックス化（2025問題）
- スキル（人）とケーパビリティ（組織）の獲得
- マインドチェンジと改革する風土の醸成（人の認識）

■ 単なるIT導入 (not DX)

- 維持・改善・拡張

■ DXの推進（破壊・変革・創造）

➤ 外部（顧客に対して）

- ・ 新しい顧客価値創造
- ・ ビジネスモデルの変換
- ・ 新規の事業分野への進出

△ ビジネス変革を起こす

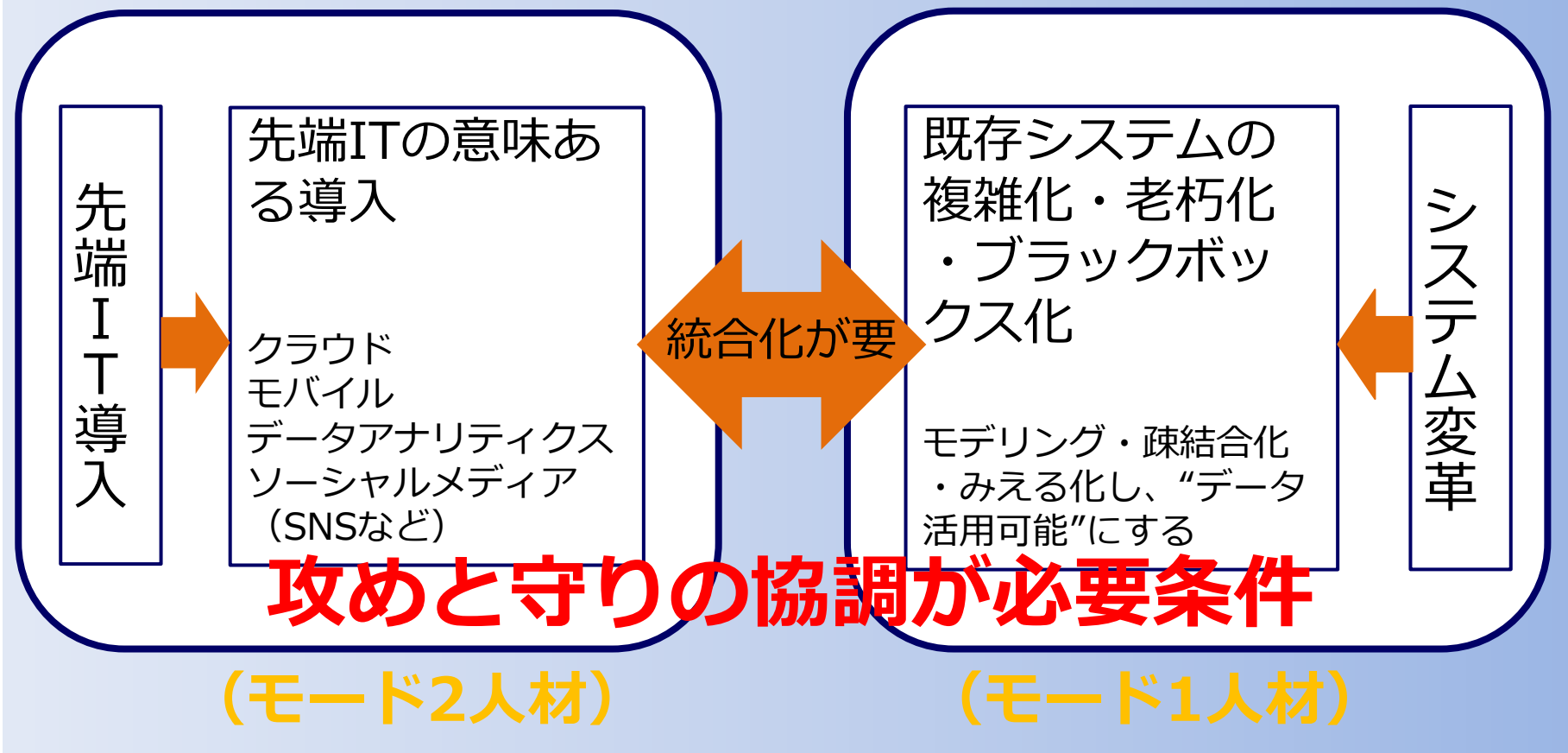
➤ 内部（社内・人・組織に対して）

- ・ 業務そのものの自動化・不要化
- ・ 意思決定方法の変革
- ・ 指揮命令・組織運営方法の変革
など

◎ 今までにない形態にする （コロナは、主に、内部に影響）

重要
POINT

ITアーキテクチャ視点でのDXの対象



■ 短期

- DXのための精神的基盤確立が急加速
- テレワーク化、デジタル化に対応できる企業と出来ない企業の格差拡大
- テレワーク市場拡大へ
- DX加速のきっかけへ

■ 中長期

- ネット、デジタルリテラシー向上と安全安心な社会へ変化
- 企業の役割変化で“ゆらぐ”企業と“対応できる”企業に分化
- IT化されたサービス業が、社会の中心へ
- DX精神基盤（DXマインド）の確立

ただし

- AIなどの先端ITの経験、習熟度向上の課題
- 既存ITのブラックボックス化、スラム化の課題は、コロナに関係なく解決しなければならない

■コロナ対策が、I T 戦略遂行の加速要因になったか？

- 大いに加速 27%
- やや加速 44%
- 合計 71% の企業が、加速要因と回答している

- テレワーク化 74%（対応済み、緊急対応した、3 M以内）
- 営業のオンライン化 49%
- 採用のオンライン化 46%
- オンラインサービス開始 43%

出典：ITR「コロナ禍の企業IT動向に関する影響調査（2020年4月）より

■ 短期

- 池の水を抜いてみた → 初めてわかることが、たくさん見つかる
- 本当のことを知る → 未曾有の危機になると開き直れるものだ
- 強制された様々な決断 → 二度と出来ないような社会実験を行うことになった
- **変化へのきっかけ → 経験により、実感でき、さらに確信に変わること（マインドチェンジ）**

■ 中長期

- コロナとの共生 → 新しい社会のスタートラインに立つ
新たな潮流（予防・衛生意識の高まり、在宅時間の増加による生活感の変化、
新たな節約意識・購買動向・価値観の変化など）
- 人の幸福追求を中心とした共創（企業の勝ち・負けの世界ではない価値観）

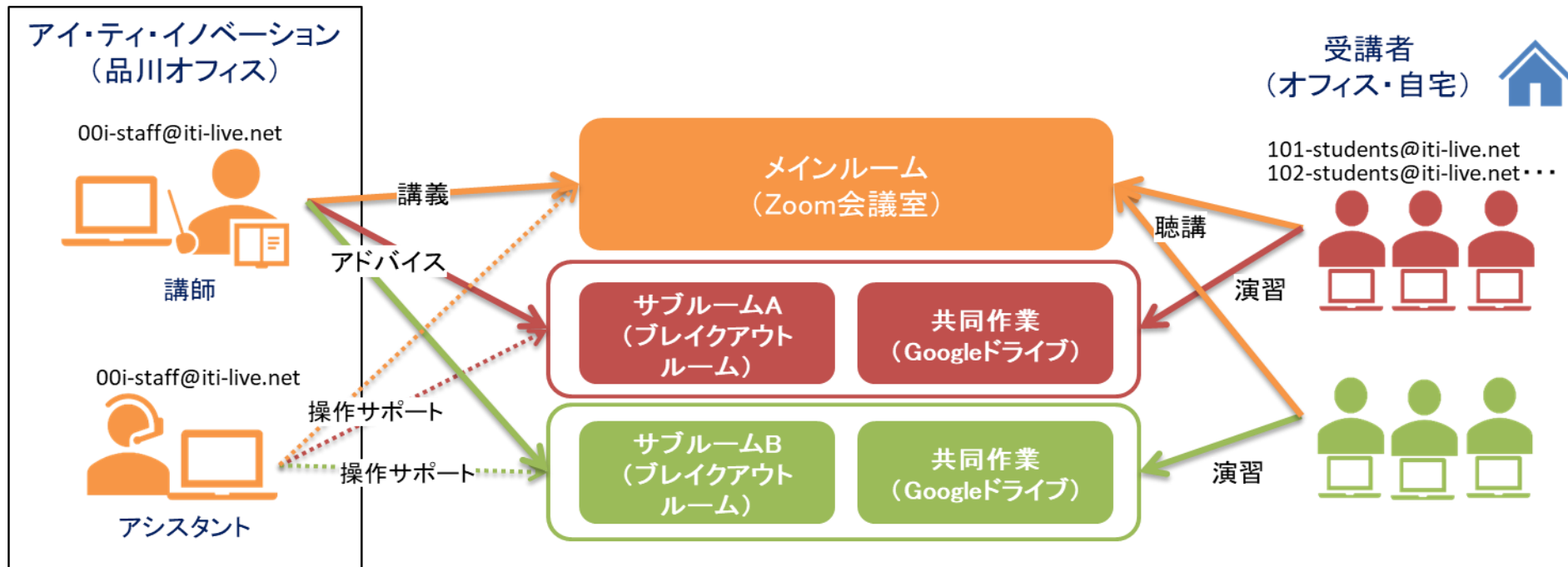
新たな社会基盤確立へ

■ 短期

- 3か月会社機能の一部が、ストップ（研修ビジネス、I T I Indiaロックダウン）
- 3月末からテレワーク化を実施（90%の社員）、6月以降も良い点を残し継続
- 強制的働き方改革（場所、時間、旧プロセスにとらわれない働き方へ2Wで以降）
- 新たな自社の風土醸成の機会ととらえる（新しい血も入れたい。だから積極的に採用しようとした）

■ 中長期

- 営業とマーケティング改革実施（新）
（営業カルチャ変革、営業スタイル変革、H P などデジタル化対応、S E O 対策など）
- 研修事業のオンライン化（2か月間）、開始済み（新）
- 資本政策、ISMS導入、ERP導入などの戦略的施策は、止めずに推進
- 人材の採用強化（新）
- グローバル分業再定義（日本とインドの子会社など）



- Web会議はZoomを使用し、講義・グループ演習のコミュニケーションをとる。
 - Zoomの会議室(メインルーム)に全員が参加し、講義を聴講。
 - グループ演習の際にはZoomの「ブレイクアウトルーム機能」を使いサブグループ単位で議論。
- グループ演習の共同作業は、GoogleドライブのGoogleスプレッドシート、スライド、図形描画、Jamboardなどを利用する。
- 講師・受講者には弊社より法人用Gmail (XXX@iti-live.net)を貸し出す。
 - Zoomのログイン、Googleドライブのアカウント(ログインID)は、「XXX@iti-live.net」を使用。
- Zoom、Googleドライブの各種設定はアシスタントが実施。



- **数値目標、当面の施策**
- **主要経営指標の推移**
- **売上計画と人員計画**



- 再考の機会
- 学習の機会
- 組織変革の機会
- 風土変革の機会
- DX推進の機会

キーワードは、
“自立・自力”“利他・共生”

ITIフォーラム2020 in summer

真のデジタルトランスフォーメーションの実現に向けて
～ビジネス変革とビッグデータ活用 “攻め”と“守り”～

2020年7月8日(水)

無料WEBセミナー (LIVE配信)

開催時間 14:00～17:00

※ 事前登録制

「コロナ禍の企業IT動向に関する影響調査(ITR、**2020年4月**)

「**New Nomal 3**大潮流」(インテージ)

フィンランド人はなぜ午後**4**時に仕事が終わるのか(堀内都喜子著)

2020.4.22【連載:はじめに】コロナショックをチャンスに 林衛

<https://www.it-innovation.co.jp/2020/04/22-102343/>

2020.5.18【連載:その1 テレワークで分かったこと】コロナショックをチャンスに 林衛

2020.6.1【連載:その2 無意識に身についている“習慣”を見直す】コロナショックをチャンスに
林衛